

新企画

写真で見える浪曲人生

あずまや・こうらく  
1回目 東家幸楽 (86歳)



「生きていくかぎり『浪曲研修会』は続けたい」

写真・森幸一ほか 文・おさだ吾作



高道義揚

佐藤栄作

あずまや・こうらく 明治43(1910)年、新潟県南蒲原郡うまれ。巨星・東家楽燕(らくえん)の「南部坂雪の別れ」に感動。20歳で楽燕に入門、燕寿(えんじゅ)の名前をもらい、のち燕寿丸となり昭和16年から幸楽。奥方は合三味線もつとめた故・東家みさ子さん。写真は佐藤栄作の筆になるテーブル掛けを前にする、50代半ばの師。

かつては落語や講談を圧して、娯楽の王者の地位に君臨していた浪曲。浪曲そのものにも、浪曲家、曲師、興行師などの関係者にも栄光と涙の歴史がある。その歴史を写真を元にたどろうという新企画です。

記念すべき第1回は「浪曲研修会」の東家幸楽師だ。

春風駘蕩(たいとう)。「浪曲研修会」の主催者としてあまりにも名高い。「私が「浪曲研修会」を始めたのが昭和35年の7月からですから、もう35年も経つんですね」

「浪曲研修会」の第1回目のチラシには「次代の浪曲の開拓を志して研修会を結成し毎月、新作発表会を催したい」とある。

幸楽師といえは「浪曲研修会」の主催者としてあまりにも名高い。「私が「浪曲研修会」を始めたのが昭和35年の7月からですから、もう35年も経つんですね」

「浪曲研修会」の第1回目のチラシには「次代の浪曲の開拓を志して研修会を結成し毎月、新作発表会を催したい」とある。

「浪曲研修会」の第1回目のチラシには「次代の浪曲の開拓を志して研修会を結成し毎月、新作発表会を催したい」とある。



師匠・東家楽燕(写真、右)の46、6感ころ「偉大で雲の上の人でしてね。当時は、いまのスマップ6人足したより凄い人気でした。弟子を気づかうやさしいかたでした」

と存じます」と意気軒昂だ。

1回目のメンバーは三門お染・末広友成・松葉薫・志摩光陽・東家菊燕、そして幸楽師と芸達者が揃った。

「新作と謳(うた)い演者もそのつもりでしたが、新作だけでは物足りないというお客さまの声で十八番ものも演題としました」

ここ4、5年は隔月の公演だが、30年ちかく毎月、会を開いてきた。継続は力なり。浪曲史に燦然と輝く大事業といえる。

「私の目が黒いうちは続けたいですね。」



幸楽師を物心ともに支えた東家みさ子夫人(写真、右。左は東家楽浦夫人の東家文字)は13年前にあの世の人に。「浪曲研修会では出演者全員のス味線を弾いてくれました。公私ともに応援してくれた恩人です」

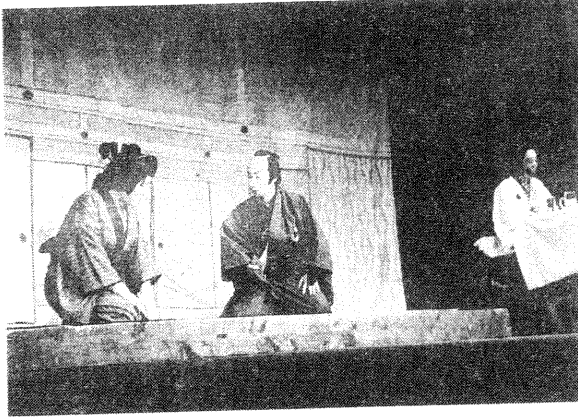
浪曲発展のためと若い人材の育成のためにも」

幸楽師が総理大臣・佐藤栄作（故人）に可愛がられたのも有名だ。

「昭和40年ころから6年以上、毎月1回、赤坂の料亭に招かれて『乃木伝』を語りました。総理は私が語っている間は、お酒は一滴も召し上がりたらず聞き入ってくれましたよ」

右のページの上の写真。テーブル掛けの「道義 高揚」は佐藤栄作の自筆。幸楽師の宝物のひとつだ。

最近めきめき売りに出してきた国本武



昭和20年代の後半。歳末助け合い運動での節劇。「佐倉宗五郎の子別れ」で宗五郎を演じた。「右の語りは国友忠、女房役は玉川次郎です。この時は大入り満員で5万円という大金を寄付できました」。昔から篤志家だったのだ。

春は幸楽師の愛弟子だ。

「武ちゃんは一を聞いて十を知る賢さがある。将来を切り開く知恵がある。これからも、どんどん大きくなる素材です。育ててあげたいね」

その国本武春は幸楽師のことを、「入門して15年になります。師匠は神様みたいな人です。自分は二の次でいつも人のため、芸のために骨を折っています。私には芸だけでなく人生の師匠です」

うるわしい師弟愛だなあ。

幸楽師の好きな言葉は「実直」だ。「私は人の悪口をいうのは嫌いなんです。自分に与えられた役割を実直にやり通したいんです」

健康の秘訣は、

「暴飲暴食はしない。タバコはやりません。旬のもの、いまだとサンマなんかを肴に軽く一杯やるのが楽しみです」

浪曲のこれからはどうなりますか。「わたしらの新弟子時代は一席おぼえるのに2年かかりました。いまは時代がまったく違います」

昔の型を守るより新しいことを自分の好きなようにやればいいんです。そして、わかりやすい浪曲を心掛けてほしい。それと舞台上がって「絵になる」ことを考えてほしい」

愛妻の東家みさ子さんに13年前に死に別れた幸楽師に再婚の意思はと、大ボケの質問を發したら、

「あつはつは。結婚は金がかかるから、もういいですよ」

無私、浪曲への限らない愛情、おだやかな物腰、やさしい笑い声。

名前のおお、周囲を幸せにし楽しくさせてくれる幸楽師でした。



木馬亭の楽屋にて武春夫妻と。「お客さまにわかりやすい浪曲を指導されています。かげがえのない師匠です」



今年の3月。武春の平成7年度文化庁芸術祭賞演芸部門新人賞と第12回浅草芸能大賞新人賞の受賞パーティーにて。市川右太衛門や故・守田勘弥に似た「美貌」は衰えていない。

# 浪曲

24  
52

…これほどすばらしい芸は他にはないと思います。

浪曲家の皆さん…頑張ってください。

多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉